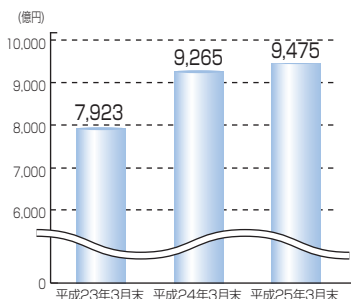


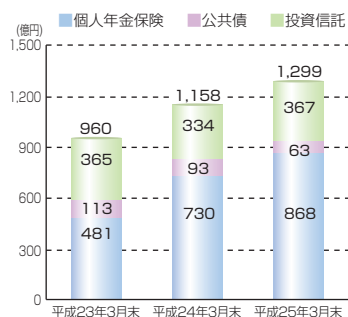
2013年3月期決算ハイライト (単体)

預金残高推移



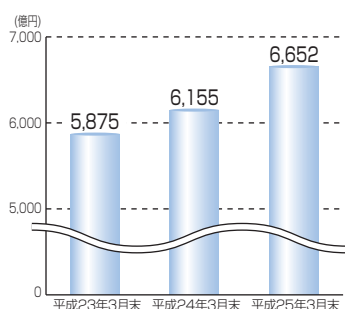
小口で安定した資金の確保を目指し、個人のお客さまを中心に預金の増強を図ってまいりました。預金残高は前期比210億円増加し、9,475億円となりました。

預り資産残高推移



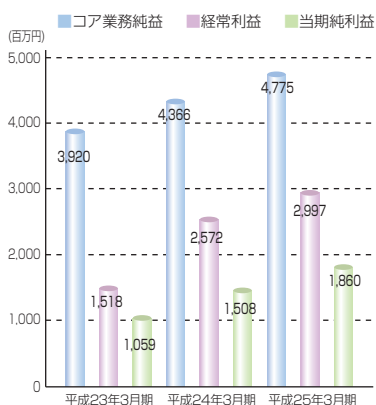
地域のお客さまの多様化する資産運用ニーズにお応えするため、県内外13ヶ所にマネープラザを開設しております。専門スタッフがきめ細かくお応えするということで大変ご好評をいただき、預り資産残高は前期比141億円増加し、1,299億円となりました。

貸出金残高推移



個人向けの住宅ローンや消費者ローンを含め、中小企業向け貸出等に積極的に注力した結果、貸出金残高は前期比497億円増加し、6,652億円となりました。

コア業務純益・経常利益・当期純利益の推移

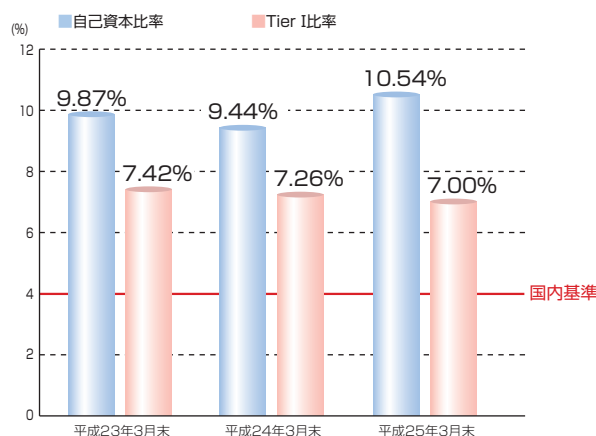


預貸金収支を中心に収益力強化に努め、コア業務純益は前期比4億円増加して47億円となり、経常利益は前期比4億円増加して29億円、当期純利益は前期比3億円増加し、18億円となりました。

用語解説

- ①コア業務純益…銀行の本来の業務の成果を表す業務純益から一般貸倒引当金繰入額と国債等債券損益を除いたものです。
- ②経常利益…業務純益に貸出金償却や株式の売買損益などの臨時損益を加減算したものです。
- ③当期純利益…経常利益に特別損益と税金を加減算したものです。

自己資本比率

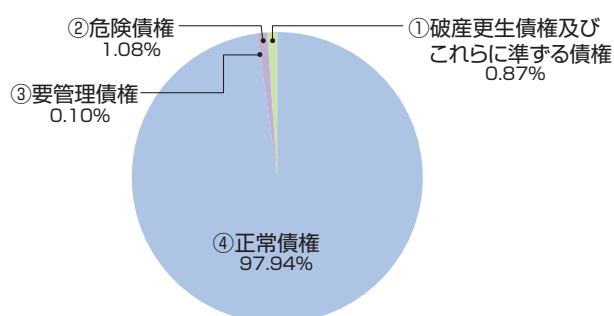


自己資本比率は、前期比1.10ポイント上昇し10.54%となりました。国内基準で必要とされる4%を大きく上回っております。また、自己資本のうち資本金、資本準備金、利益剰余金などで構成されるTier I比率は7.00%となりました。

用語解説

自己資本比率は、貸出金などの資産に対する自己資本の割合で、銀行経営の健全性を示す重要な指標の一つです。当行のように海外に拠点のない銀行は、国内基準が適用され4%以上が健全な銀行の水準とされています。

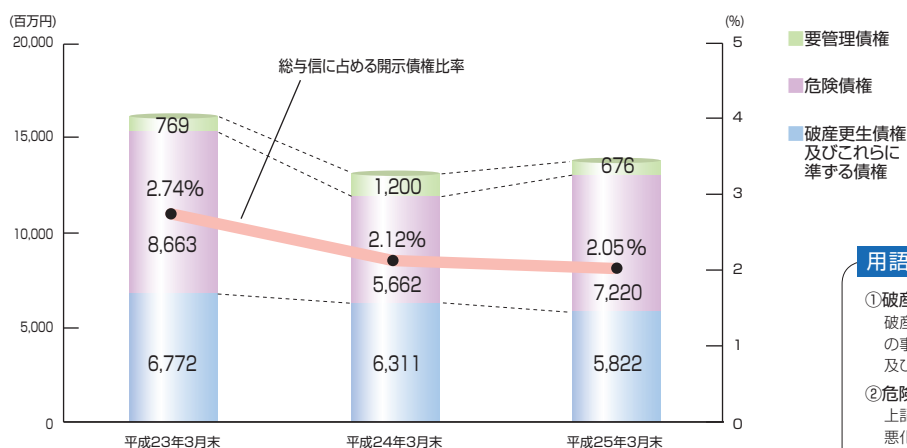
金融再生法に基づく開示債権



(単位: 百万円)

	H25年3月末
①破産更生債権及びこれらに準ずる債権	5,822
②危険債権	7,220
③要管理債権	676
小計 (A)	13,719
④正常債権	654,554
合計 (B)	668,274
開示債権比率 (A) / (B)	2.05%

開示債権額と総与信に占める開示債権比率の推移



用語解説

- ①破産更生債権及びこれらに準ずる債権
破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権。
- ②危険債権
上記の状態には至っていないが財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性が高い債権。
- ③要管理債権
上記を除く3ヶ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。